

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会会長コメント

平成2年11月17日
気 象 庁

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会会長コメント

雲仙岳周辺では本年7月に地震活動が活発になり、震源域が従来の橘湾から雲仙岳の方にも拡大し、微動も観測されるようになった。このため、気象庁では10月15日から機動観測を始めていた。九州大学では7月から地震の臨時観測を行っており、さらに九州大学を中心として6大学が合同観測を行うこととしていた。

このような状況のもとで、本日03時半頃から連続微動が発生し、06時頃より噴煙が上がるのが観測された。

現地調査によれば噴煙発生場所は、九十九島火口、及び地獄跡火口と見られている。

今後も火山活動に警戒が必要である。

平成2年12月12日
気 象 庁

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会会長コメント

雲仙岳では7月から地震が活発化するとともに火山性微動が始まり、11月17日に198年ぶりに噴火した。噴火の初期には2つの火口が活動し、噴煙を400m程度上げていたが、18日には地獄跡火口の噴煙は急速に弱まり、九十九島火口も次第に衰えて最近では高さ数十mになった。火口の噴気温度も次第に低下した。

辺長測量では南北に伸びが見られたが、水準測量では顕著な変化は見られなかった。

11月に地震が増加したが12月に入って減少した。震源は主として雲仙岳西麓を中心に分布している。微動は噴火後一時的に増加したが11月末を最後に観測されていない。

このように、今回の火山活動は短期的には低下の傾向にあるが、有感地震が発生する等地下での活動は依然続いており、また火山活動は消長をくり返すこともあるので、今後も火山活動に注意が必要である。